

# Let's 探究! 地域創生に向けた 高校生ミーティング

レポート

(写真出典:北海道釧路総合振興局商工労働観光課)

キーワード : 地域創生、探究、連携・協働(道立高校・市町立高校・私立高校・高等専門学校・大学・振興局・教育局)

## 概要

当局では、地域創生の観点から、高校生が主体的に地域課題等の解決策を考える探究活動として、計2回の高校生ミーティングを開催しました。

1回目のミーティングは令和2年(2020年)12月13日(日)にネイバル厚岸で、2回目のミーティングは令和3年(2021年)2月13日(日)に釧路市内のホテルで実施しました。

目的は、①探究活動を通じて地域の魅力を発信できる高校生を育成すること、②将来の釧路地域を担うリーダー的な存在となる若者を育成することの2点とし、参加対象は管内の公立高校(道立、市町立)、私立高校、国立高専の1・2年生としました。

また、地域の大学や振興局と連携して実施することとし、大学生や振興局・教育局の若手職員にもオブザーバーとして探究活動等に加わってもらいました。

「釧路管内の地域創生に向けて」を大きなテーマとし、管内の公立高校8校、私立高校1校、国立高専1校の生徒(学生)が参加、オブザーバーを含めると総勢44名の参加者でグループごとに分かれて探究活動を行いました。

## 参加者内訳

学校名等	人数
釧路湖陵高校	3
釧路江南高校	3
釧路東高校	3
阿寒高校	1
白糠高校	3
釧路北陽高校	1
霧多布高校	3
釧路明輝高校	3
武修館高校	2
釧路高専	3
教育大釧路校	9
振興局	6
教育局	4

## 期待される効果

- 高校生
    - ・地域への愛着と誇りの醸成や地域貢献への意欲の向上
    - ・他校生徒との交流による学習意欲の向上
  - 振興局・教育局の若手職員
    - ・地域の魅力の再発見や政策形成能力の向上
- ↓
- 若者の地元定着の促進
  - 新たな価値の創造など地域活性化の好循環

## ポイント

学校規模や学科、設置者が異なる高校の生徒が同じグループに入り、協働して活動することにより、様々な角度から課題解決に向けた考え方や意見が出てくることなどを期待して、異なる高校(高専)の生徒(学生)4~5名に大学生、振興局・教育局の若手職員2~3名がオブザーバーとして加わる形でグループを構成しました。

## 開会・オリエンテーション【令和2年12月13日(日)9:30-10:20】

第1回ミーティング



釧路教育局長挨拶

主催者を代表して釧路教育局の川端雄一局長が挨拶をしました。

その後、初めて顔を合わせる高校生が多いため、会場の雰囲気を和らげるためにオリエンテーションでアイスブレイクをおこないました。

右の写真は、「ペーパータワー」というアイスブレイクの様子です。今回の「ペーパータワー」は、各グループにペーパーを50枚ずつ配り、折る、曲げる、切るなどのような方法を使っても良いので、制限時間内にどれだけ高く積み重ねられるかをグループで競いました。釧路高専の建築科の生徒が入っているグループが優勝し、早速、専門性が発揮された場面でした。



アイスブレイク(ペーパータワー)の様子

## 講義【令和2年12月13日（日）10:30-12:00】

第1回ミーティング

北海道教育大学釧路校の宮前耕史准教授に地域創生を考える糸口となる講義を行いました。

### 【講義内容】

- ・釧路地域での人口減少問題などの課題
- ・SDGsを踏まえ地域に住み続けられるまちづくりの視点
- ・先進的な事例として札幌の高校の実践紹介 など



宮前准教授講義



## 探究活動Ⅰ【令和2年12月13日（日）13:00-14:30】

第1回ミーティング



釧路管内の地域創生に向けて、探究を深めていく各グループのテーマを設定するために、釧路地域の強みや弱み、地域にとっての課題などをグループごとにKJ法で整理しました。

### 釧路の強み

自然が豊か、国立公園がある、夏は冷涼な気候、冬は雪が少ない、夕日がきれい、食べ物が美味しい、温泉が多い、優しい人が多いなど…

### 釧路の弱み

人口が少ない、まちに活気がない、空き家が多い、店が少ない、進路が限定される（行きたい大学が少ない、魅力的な就職先がない）、交通機関が脆弱、魅力的な観光地が少ないなど…



探究活動Ⅰ（KJ法）の様子

**ポイント** オブザーバーとして参加する大学生や振興局・教育局の若手職員を対象に「オブザーバーへの事前説明会」を実施し、探究活動や協議の役割等について説明し、協力を依頼しました。

大学生、振興局・教育局の若手職員の皆様、御協力ありがとうございました。



オブザーバーへの事前説明会



## 協議【令和2年12月13日（日）14:40-15:30】

第1回ミーティング

探究活動Ⅰで整理した釧路地域の強みや弱み等を基に、釧路管内の地域創生に向けて、探究を深めていく各グループのテーマを設定しました。

また、2回目のミーティングまでに必要になるデータや調査方法等について、各グループのメンバーの間で確認し、調査活動における役割分担等も行いました。



協議の様子

第1回から第2回のミーティングまで

**「オープンチャット」**の活用  
グループのメンバーが一堂に集まって情報収集や調査活動を行う機会が限られているため、オープンチャットを活用し、メンバーの動きや各自で収集したデータをグループ内で共有し、探究活動を進めました。（※「オープンチャット」の活用は、事前説明会において大学生からの提案があったアイデアです。）

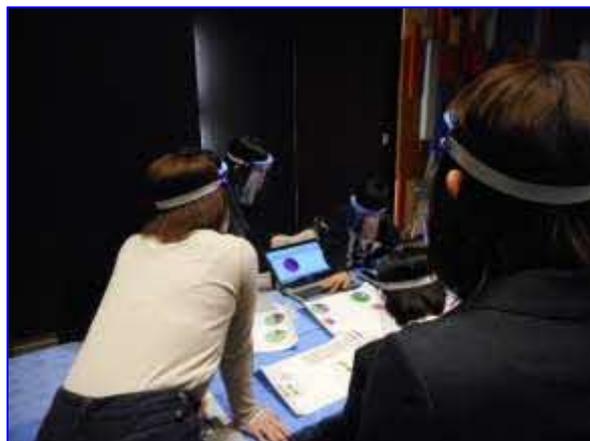
また、データの収集においては、内閣府が運用している官民のビッグデータである「地域経済分析システム（RESAS）」を活用し、釧路市の空き家の状況などを調べたグループもありました。



第1回から第2回のミーティングまでの間でメンバーの各自が収集したデータや調査結果を持ち寄り、グループ内で整理・分析した上で、更なる探究活動を行い、釧路管内の地域創生に向けた提案をまとめ、発表の準備を進めました。



探究活動Ⅰ・Ⅱの様子



### A 「釧路管内魅力マップ」

釧路管内の各地域（市町村）の魅力を変えて確認してもらうことで人口流出を食い止め、人口減少に歯止めをかけたいという意図から、釧路管内の地域の魅力を取りまとめ1枚のマップとして提案しました。

グループのメンバーと釧路管内の「よさ」について探究活動を行ったことにより、それぞれが釧路管内の「よさ」を再発見、再確認できるよい機会となりました。



### B 「釧路の自然を利用して、空き家の数を減らしていこう!!」

空き家が多いことを釧路管内の課題の一つとして捉え、更には釧路管内の自然の豊かさの強みを生かすことを考えました。

釧路の自然を一望できる空き家を探し、リノベーション等の手を加え、カフェやゲストハウスを作ることや、村田公園にある空き家を活用したリフォームアイデアなどを提案しました。



### C 「若者に移住してもらうために」

釧路管内の地域の活性化を図るために、若者に移住してもらう方策について考えました。特に釧路管内の特色である酪農と漁業の豊かさに目を付け、酪農と漁業で若者を呼び込むことを提言しました。

また、CM 動画やテレビ番組等で釧路管内の酪農と漁業の魅力を積極的に発信し、若者が移住した後の生活のサポートや就職支援等の充実を図る必要があると提言しました。



### D 「地域資源を生かした釧路の活性化」

「近年帯広市に人口を越されてしまった」、「付近の地域は年々人口が増えているところもある」、「釧路市の人口は年々減少している」といった現状を踏まえ、釧路管内と他の地域との環境や施策等の違いを様々な観点から分析しました。

その結果、釧路市の今後の課題として「子育て支援を中心とした住環境の改善」、「周辺地域との連携や交流の強化」が必要であること、また、それらを実現するために、ふるさと納税返礼品の魅力化を図り、財源を確保することが必要であることなどを提言しました。



**E 「釧路の隠れた名店を探せ！」**

校内でアンケート調査を行い、釧路管内で若者が行く場所が限られていることを課題として捉えました。

飲食店等が釧路管内の様々な特色をコラボさせ、若者をターゲットにしたイベント等を行うことで、リピーターが増加し、地域の活性化を図ることなどを提言しました。



**講評**

北海道教育大学釧路校の宮前耕史准教授に1回目から2回目までのミーティングを通しての探究活動の成果や、高校生等の柔軟な発想や視点を踏まえた大人の取組の重要性について、御講評いただきました。



**F 「若者が帰ってきたくなる釧路をつくるために」**



「釧路暮らし満足度」等について、高校生や保護者にアンケート調査を行い、「高校生よりも保護者の満足度が低い」、「子育て世代が住みづらいと思っている」、「若者があるとよいと思うお店が少ない」、「働き口が少なく、失業率が高い」などを考察しました。

若者が行きたいと思えるようなお店を増やし、働き口を確保することで、子育て世代の人口を増やし、釧路管内の地域の活性化につなげることに ついて提言しました。



最後に、参加者全員で1回目から2回目までミーティングを振り返りました。

釧路教育局川端局長より「今後も高校生が主体的に街づくりに関わり、社会の創り手となることを期待しています。」



**参加者の声**

＜高校生から＞

- 地域創生に向けてはいろいろな意見や考え方を加えながら進めていくことが重要で、他の人との交流が欠かせないと感じた。
- 様々な発想を取り入れることで新しい可能性を感じ、ワクワクした。探究活動の楽しさを感じた。
- 高校生でもできることがあれば全力で協力し、釧路の活性化に尽力したいと思った。
- グループの振興局・教育局職員がうまくサポートしてくれてよかった。
- 無理やり答えを導くのではなく、答えを導くための過程が重要だと感じた。
- 学校の「総合的な探究の時間」等で学んできたことを生かすことができた。
- 意見や思考の多種・多様性について学ぶことができた。
- 自分の周囲のみでは気付くことのできないような発想や、振興局の職員の方だからこそその視点や意見などを聞くことができ、学びにつなげることができた。
- 様々な学校の取組等を情報共有することができ、とても勉強になったので、今後もこのような機会を作りたいと思った。

＜大学生から＞

- 今後も高校生や地域の方など、自分とは異なる立場の人と交流を図りたいと思った。
- 高校生の視点、大学生の視点、振興局や教育局の職員の方々の視点など、様々な視点から一つのことに取り組むことはとても楽しいことだと感じた。
- 高校生の発想力や行動力、振興局・教育局職員の方々の情報を処理する力や整理する力に刺激を受けた。

＜オブザーバー（振興局・教育職員）から＞

- 実際に社会に出ていない（働いていない）がゆえの高校生の着眼点や発想に刺激を受けた。
- 今回詰め切ることができなかった観光と公共交通機関のコラボなど、観光の担い手について今後も考えていきたい。